

ロボティクス基礎 演習 2

1. 講義においては図 1 で表される、平面内を運動する 2 リンクマニピュレータの運動方程式の導出をおこなった。

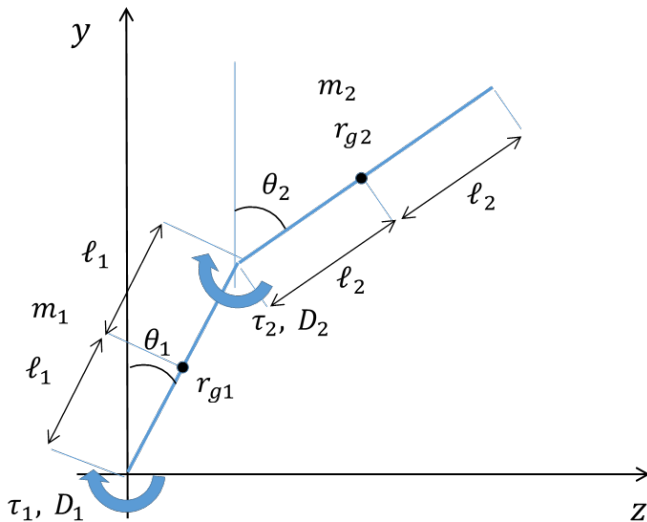


図 1: 2 リンクマニピュレータ

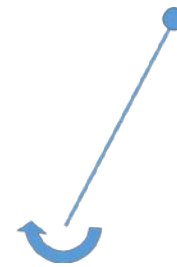


図 2: 取り替えるリンク

その際、各リンクの部材は質量分布の均質な棒としていたが、これを図 2 のようなものに変更する。第 i リンクの質量は第 i 関節の反対側に集中しており、棒の部分の質量は無視できる。また質量の集中する部分に大きさはなく、質点とみなせる。

(1) ラグランジュの方法では

- ・ 重心位置ベクトル r_{gi} の計算
- ・ 運動エネルギーの総和 T 、ポテンシャルエネルギーの総和 U 、損失エネルギーの総和 D の計算
- ・ $\frac{d}{dt} \left(\frac{\partial}{\partial \dot{q}_i} T \right) - \frac{\partial}{\partial q_i} T + \frac{\partial}{\partial \dot{q}_i} D + \frac{\partial}{\partial q_i} U = u_i$ の計算

という手順を踏むが、部材の変更によって修正を受ける箇所はどことどこか。具体的に答えよ。(各 5 点)

(2) 2 リンクマニピュレータの運動方程式の導出にあたって、ニュートン/オイラーの運動方程式に基づく古典力学的方法と、ラグランジュ法(解析力学)を解説した。多リンク系への適用を考えた場合、前者にはどのような欠点があるか。

「内力」を念頭に答えよ。(10 点)

2. 図3の1リンク系の運動方程式を求めたい. リンクは問1の変更後のものと同様である. 長さは 2ℓ , 質量は m とする. 回転軸は原点にあり, トルク τ と係数 D の粘性摩擦, 重力が働いている. ラグランジュ法によって運動方程式を導出せよ. (オイラーの運動方程式と同じ結果なら正解である.) (20 点)

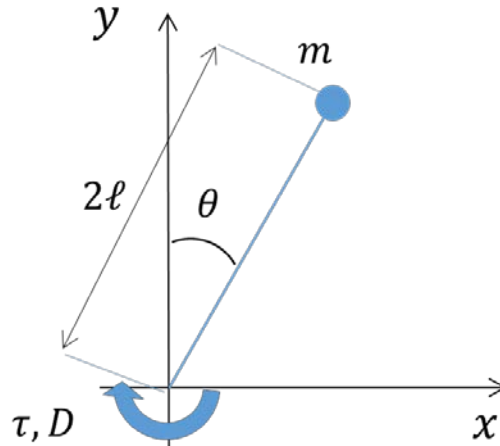


図3: 1リンク系

3. 下図のロボットを考える.

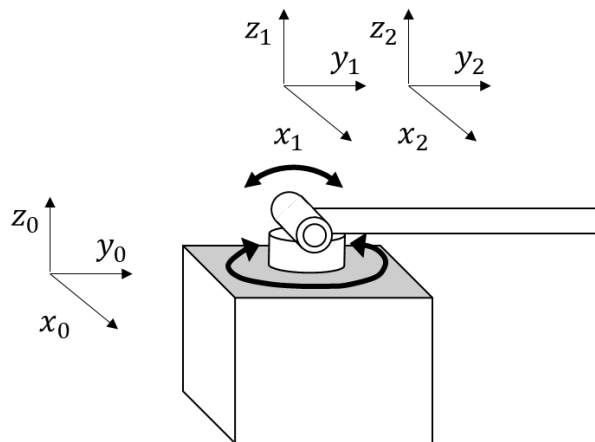


図4: 2自由度ロボット

リンクの根本にローテーションとピボットの自由度がある. これは第1リンクの長さが0であるようなR-Pロボットとみなせる. 基準座標系を (x_0, y_0, z_0) とし, (仮想)第1リンク, 第2リンク座標系をそれぞれ, (x_i, y_i, z_i) , $i = 1, 2$ とする. ロボットの初期姿勢と各リンク座標系の配置は図4上に示すとおりとする(座標系の原点は関節中心にある). リンクの長さは ℓ [m]とする.

- (1) 手先の初期位置 (基準座標系座標) を答えよ. (5 点)

- (2) 軸 q まわりの角度 θ の回転行列を $R(q, \theta)$ で表す.

$$R(x, \theta) = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & \cos \theta & -\sin \theta \\ 0 & \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix}, R(y, \theta) = \begin{bmatrix} \cos \theta & 0 & \sin \theta \\ 0 & 1 & 0 \\ -\sin \theta & 0 & \cos \theta \end{bmatrix}$$

$$R(z, \theta) = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta & 0 \\ \sin \theta & \cos \theta & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \text{ である. 第 } i \text{ 関節の回転角を } \theta_i \text{ とするとき,}$$

基準座標系における手先位置を具体的に表わせ. (20 点)

- (3) 第1関節を $\pi/2$ [rad], 第2関節を π [rad] 回転させた. 手先はどこに移動するか. 座標変換を用いて答えよ. (直観的な答えと同じ結果になれば正解である.) (10 点)

4. 次のフィードバック系を考える.

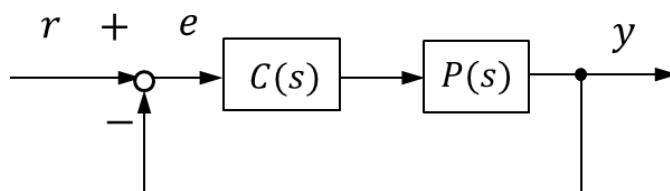


図 5: フィードバック系

- (1) 目標値 r から追従偏差 e までの伝達関数を答えよ. (10 点)
- (2) サーボ系とは, 制御器 $C(s)$ に()を含む系をさす. カッコ内の語句を答えよ. (5 点)
- (3) サーボ系において, ステップ信号に対する定常偏差はいくらになるか. 計算によって示せ. ただしラプラス変換の最終値定理「 $Y(s) = \mathcal{L}[y(t)]$ であるとき, 信号 $y(t)$ の最終値は $\lim_{s \rightarrow 0} sY(s)$ で与えられる」は使ってよい. (10 点)